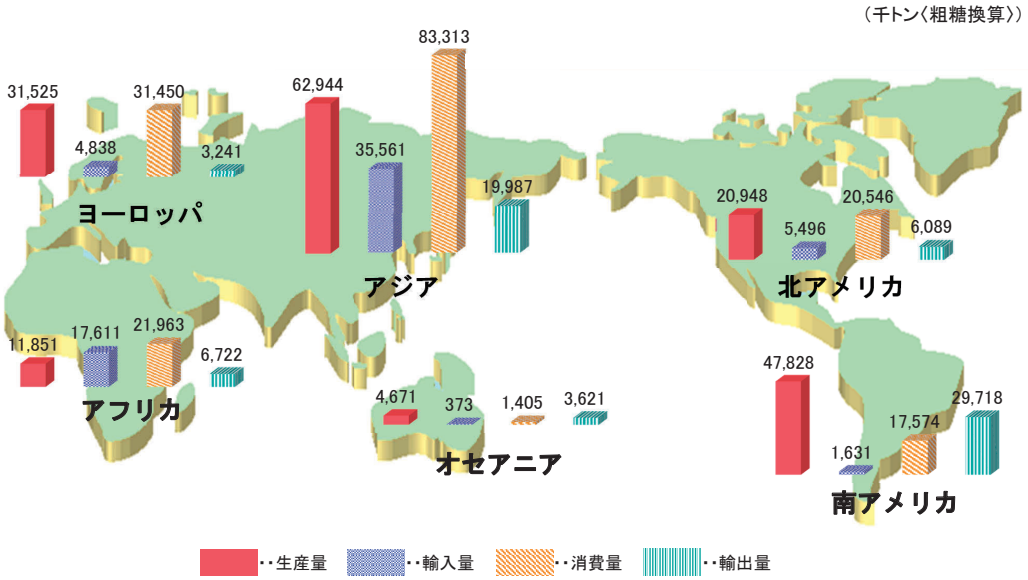
需給動向

砂糖の国際需給

調査情報部　水野　崇、塩原　百合子

1．世界の砂糖需給（2020年６月時点予測）

図１　絵で見る世界の地域別の砂糖需給（2019/20年度予測値）



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, June 2020」
注１：年度は国際砂糖年度（10月～翌９月）。
注２：ヨーロッパには、ロシアを含む。

表１　世界の砂糖需給の推移

（単位：千トン（粗糖換算）、％）

年 度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1989/90	29,879	108,244	27,973	105,790	29,126	31,180	29.5
1994/95	41,641	116,726	31,803	112,686	32,672	44,812	39.8
1999/2000	62,812	133,133	36,409	127,942	39,734	64,678	50.6
2004/05	63,697	144,251	47,084	146,907	50,426	57,700	39.3
2009/10	55,030	160,315	56,023	164,749	56,244	50,373	30.6
2014/15	69,133	183,717	59,707	176,663	62,081	73,812	41.8
2015/16	73,812	175,955	67,776	178,653	69,077	69,814	39.1
2016/17	69,814	180,387	70,759	181,308	71,288	68,363	37.7
2017/18	68,363	195,715	65,866	180,367	67,772	81,806	45.4
2018/19	81,806	186,763	61,131	183,163	61,709	84,827	46.3
2019/20（2020年3月予測）	83,654	176,970	65,022	184,961	66,692	73,994	40.0
2019/20（2020年6月予測）	84,827	179,767	65,510	176,251	69,378	84,476	47.9

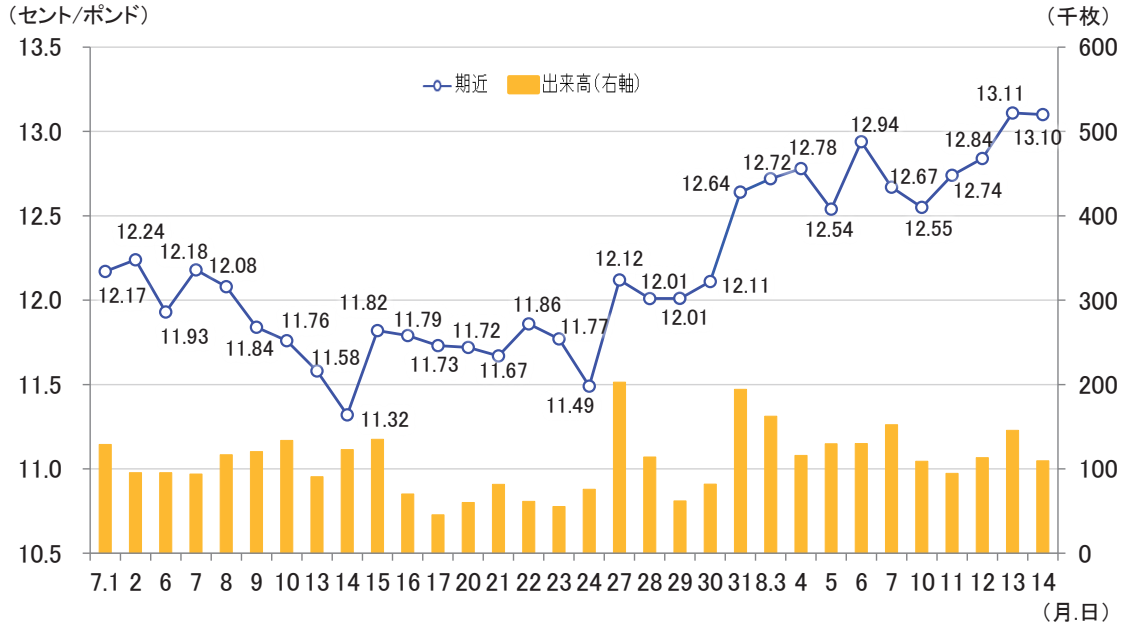
資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, June 2020」
注１：年度は国際砂糖年度（10月～翌９月）。
注２：2018/19年度以降は予測値。
注３：期末在庫量は（期首在庫量＋生産量＋輸入量－消費量－輸出量）。
注４：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

「世界の砂糖需給」「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの報告となっているので、次回は2020年10月号の掲載予定となります。直近の内容は2020年７月号をご参照ください。
「世界の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002250.html
「主要国の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002251.html

2. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き（7/1 ～ 8/14）
～7月中旬に11セント台半ばまで下落も、8月中旬には13セント超え～

図２　ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所（ICE）
注：期近10月限の値。

ニューヨーク粗糖先物相場の2020年７月の推移を見ると（10月限（がつぎり））、１日は、１ポンド当たり12.17セント（注1）と12セント台のスタートとなった。２日は続伸して同12.24セントと値を付けたものの、６日は米国で新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の再拡大による砂糖需要の減退懸念から、同11.93セントと12セントを割り込んだ。７日は、原油価格の上昇（注2）に伴い同12.18セントと12セント台に乗せるも、COVID-19の収束が不透明である状況などを受けて８日以降は再び下落に転じ、14日は同11.32セントまで下落した。15日は、原油価格が上昇したことにより、同11.82セントまで反発した。16日以降は、COVID-19の影響で、世界の砂糖消費量が冷え込むとの予測や、ブラジルのエタノール需要が低調であるとの情報から小幅に下落し、21日は同11.67セントとなった。22日は、ブラジルレアルの上昇（注3）を受けて同11.86セントまで値を上げたものの、24日は、ブラジル中南部における７月前半の砂糖生産量が前年同期と比べ大幅に増加したことや、エタノール販売量の減少が発表されたことなどから、同11.49セントまで値を下げた。27日は、インドネシアが輸入を増やすとの期待感を受け、８日以来の12セント超えとなる同12.12セントまで上昇した。31日は、インドネシアに加え中国も輸入量を増やすとの見方や原油価格の上昇によって、同12.64セントと約４カ月半ぶりの高値を付けた。

８月に入り、３日は原油価格の続伸に伴い、同12.72セントまで上昇した。５日は、タイで週後半に降雨が予報され、サトウキビの生育が促進される

と見込まれたことで、同12.54セントに下落したものの、６日には、2020/21年度の世界の砂糖需給がひっ迫するとの見方が市場に広がり、同12.94セントと５カ月ぶりの高値を付けた。10日は、タイ気象局が８月および９月の降雨量を平均以上と予測したことなどから、同12.55セントに下落した。11日から13日にかけては、中国におけるブラジル産糖の需要の増加に引きずられ上昇し、13日には同13.11セントと2020年３月以来の13セント台に乗せた。

（注１）１ポンドは約453.6グラム、セントは１米ドルの100分の１。

（注２）一般に、原油価格が上昇すると、石油の代替（補填）燃料であるバイオエタノールの需要も上昇する。バイオエタノールの需要が上昇すると、その原料作物（サトウキビ、てん菜、トウモロコシ、キャッサバなど）のバイオエタノール生産への仕向けが増える一方､それらから生産される食品（サトウキビの場合は砂糖）の生産・供給が減ることが想定される。食品用途仕向けの度合いが小さくなるほど需給がひっ迫し、当該食品の価格を押し上げる方向に作用する。

（注３）粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してレアルが高くなると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が弱まる。世界最大の砂糖輸出国ブラジルの輸出意欲が低下すれば、需給のひっ迫につながることから、価格を押し上げる方向に作用する。

３. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2020年８月時点予測）

本稿中の為替レートは2020年７月末日TTS相場の値であり、１インド・ルピー＝1.56円である。

ブラジル

2020/21年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】
収穫面積：864万ha（前年度同）
生 産 量：６億4600万トン（前年度比0.6%増）

【砂糖（甘しゃ糖）】
生産量：4287万トン（同34.8%増）
輸出量：3310万トン（同62.9%増）

2020/21年度、砂糖生産量、輸出量ともに大幅に増加する見込み

LMC International（農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社）の2020年８月時点の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2020/21年度（４月～翌３月）のサトウキビ収穫面積は、原油の国際価格の動きに不安定さが見られ、バイオエタノール需要にも不透明感があるものの、バイオ燃料など再生可能エネルギーの生産・利用の促進を図るブラジルの国家政策「RenovaBio」の本格始動が生産意欲を後押しする可能性があることも踏まえ、864万ヘクタール（前年度同、７月予測より増加）と横ばいで推移すると見込まれる（表２）。サトウキビ生産量は、生育期間を通じて天候がおおむね良好で生育が順調であることから、６億4600万トン（前年度比0.6%増、７月予測より増加）とわずかに増加すると見込まれる。

一方で砂糖生産量は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）によるバイオエタノール需要の不透明感を背景に、多くの製糖業者が砂糖生産に回帰する動きが見られることから、4287万トン（粗糖換算〈以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は

粗糖換算〉、同34.8%増、７月予測より増加）と大幅に増加すると見込まれる。この予測の下、ブラジル通貨レアルが米ドルに対して安値圏で推移することで輸出意欲が向上し、輸出量は3310万トン（同62.9%増、７月予測より増加）と大幅に増加すると見込まれる。

エタノールの輸入関税をめぐりトランプ政権から圧力

ブラジル政府は米国政府から、米国産エタノールの輸入関税を引き下げるよう強い要請を受けており、その対応を迫られていると現地の報道が伝えた。

ブラジルでは現在、米国産エタノールについて、年間７億5000万リットルまでは無税で輸入できるが、この量を超える輸入には20%の関税がかかる仕組みになっている。この関税割当制度は８月末に終了するため、それまでに、ブラジル政府は米国産エタノールに係る関税をどのようにするかを決定しなければならない。

報道によれば、米国のトランプ大統領が、ブラジルが米国産エタノールの輸入関税を引き下げない場合、報復関税を課す可能性があると示唆したのに対し、ブラジルの交渉担当者は、仮に米国が設定しているブラジル産砂糖の無税輸入枠を超えた部分について、貿易障壁を撤廃するのであれば、ブラジルも同様の対応が可能と話したとされる。

表２　ブラジルの砂糖需給の推移

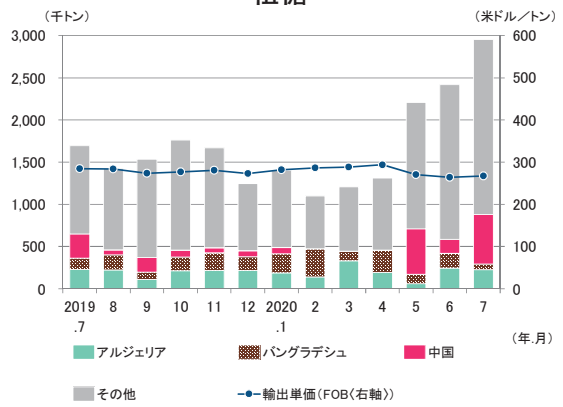
（単位：千ha、千トン、%）

年度		2017/18	2018/19	2019/20	2020/21（7月予測）	2020/21（8月予測）	前年度比（増減率）
収穫面積		8,617	8,649	8,645	8,604	8,642	▲ 0.0
サトウキビ生産量		641,066	620,832	642,219	642,000	646,000	0.6
砂糖	生産量	41,517	31,225	31,804	42,363	42,866	34.8
	輸入量	2	3	2	3	3	28.4
	消費量	10,852	10,635	10,612	10,393	10,413	▲ 1.9
	輸出量	31,026	21,017	20,321	32,615	33,099	62.9
	期末在庫量	663	239	1,113	469	470	▲ 57.7
	期末在庫率	1.6	0.8	3.6	1.1	1.1	2.5 ポイント減

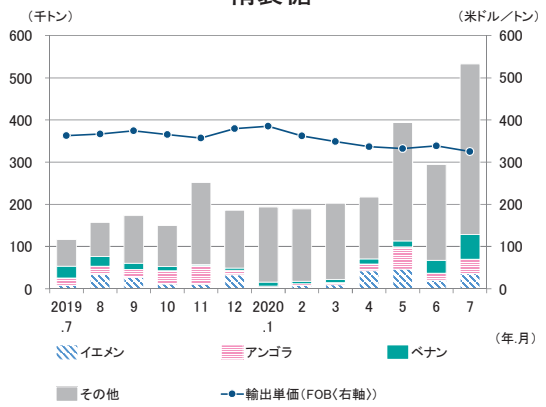
資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, August 2020」
注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考）ブラジルの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移

粗糖



精製糖



資料：「Global Trade Atlas」
注１：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。
注２：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位３カ国を表示。

インド

2019/20年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】
収穫面積：461万ha（前年度比10.4%減）
生 産 量：３億5262万トン（同14.3%減）

【砂糖（甘しゃ糖）】
生産量：2944万トン（同17.8%減）
輸出量： 749万トン（同36.1%増）

2019/20年度、砂糖生産量は大幅に減少するものの、輸出量は大幅に増加する見込み

サトウキビの主産地であるマハラシュトラ州で発生した豪雨による大規模な圃場（ほじょう）の浸水被害などが影響し、2019/20年度（10月～翌９月）のサトウキビの収穫面積は461万ヘクタール（前年度比10.4%減、７月予測より変化なし）とかなりの程度減少し、サトウキビ生産量は３億5262万トン（同14.3%減、７月予測より減少）とかなり大きく減少すると見込まれる（表３）。

サトウキビの減産や生育不良による糖度の低下を受け、砂糖生産量は2944万トン（同17.8%減、７月予測より増加）と大幅に減少すると見込まれる。輸出量は、インド通貨ルピーが米ドルに対し安値圏で推移していることや、インド政府による輸出促進政策（同政府は2019/20年度に「砂糖輸出量600万トン」の目標を設定）達成に向けた動きが加速すると見られることから、749万トン（同36.1%増、７月予測より増加）と大幅に増加すると見込まれている。

コロナ禍による労働力不足が、収穫の機械化を後押しする可能性

インドのサトウキビ主産地であるマハラシュトラ州では、毎年100万人近くの季節労働者がサトウキビの収穫作業に従事しているが、2020/21年度は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響を受けて、州外からやってくる季節労働者の不足が懸念されている。これを受け、全国協同組合砂糖工場連盟（NFCSF）は７月28日、同年度は労働力不足を埋め合わせるために、州全体でハーベスタ200台の新規購入を見込んでいると言及した。現在の同州のハーベスタによる収穫は、全体の約５%にとどまっており、ハーベスタは１台当たり1000万ルピー（1560万円）を超えることから、補助金なしでは、農家にとっては利潤向上のための投資にならず、製糖工場もサトウキビの収穫が終了して６カ月以上使用しない機械への投資には及び腰であると現地専門家は述べている。

インド製糖協会（ISMA）の予測では、同州では2019年以降、降雨量が平均以上で推移しており、2020/21年度のサトウキビ栽培面積は111万ヘクタール（前年度比43.3%増）と、大幅な増加が見込まれていることから、収穫の機械化を後押しする可能性もある。

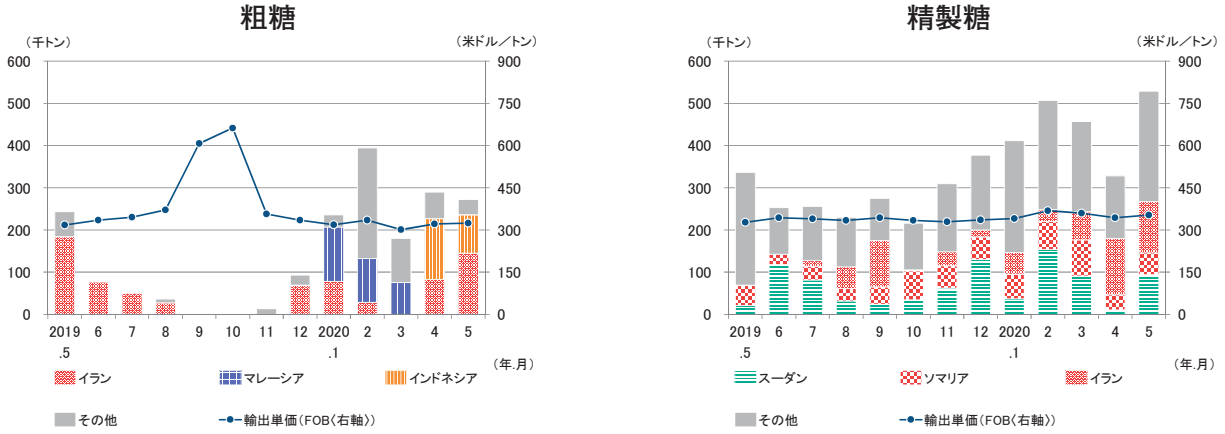
表３　インドの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度		2016/17	2017/18	2018/19	2019/20（7月予測）	2019/20（8月予測）	前年度比（増減率）
収穫面積		4,327	4,826	5,148	4,611	4,611	▲ 10.4
サトウキビ生産量		323,556	410,221	411,316	353,921	352,615	▲ 14.3
砂糖	生産量	21,848	35,043	35,798	29,329	29,437	▲ 17.8
	輸入量	2,536	2,308	664	1,100	1,350	103.4
	消費量	26,568	27,421	27,540	26,846	27,007	▲ 1.9
	輸出量	2,233	2,361	5,504	7,405	7,492	36.1
	期末在庫量	3,952	11,522	14,940	11,118	11,228	▲ 24.9
	期末在庫率	13.7	38.7	45.2	32.5	32.5	12.7ﾎﾟｲﾝﾄ減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, August 2020」
注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考）インドの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」
注１：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。
注２：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位３カ国を表示。

中　国

2019/20年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】
収穫面積：118万ha（前年度比3.5%減）
生 産 量：7449万トン（同5.2%減）
【てん菜】
収穫面積：21万ha（同12.4%減）
生 産 量：1090万トン（同6.6%減）

【砂糖（甘しゃ糖およびてん菜糖）】
生産量：1125万トン（同3.4%減）
輸入量：　574万トン（同14.0%増）

2019/20年度、輸入量はかなり大きく増加する見込み

2019/20年度（10月～翌９月）のサトウキビの収穫面積は118万ヘクタール（前年度比3.5%減、７月予測より変化なし）とやや減少し、天候不順で停滞していたサトウキビの生育状況に回復の兆しが見られるものの、収穫面積の減少による影響を相殺しきれず、サトウキビ生産量は7449万トン（同5.2%減、７月予測より減少）とやや減少すると見込まれる（表４）。

てん菜の主産地である内モンゴル自治区でヨトウムシなどによる虫害が発生したことから、てん菜の

収穫面積は21万ヘクタール（同12.4%減、７月予測より変化なし）とかなり大きく減少すると見込まれる。生育期間を通じておおむね天候に恵まれ、てん菜の糖分は前年度を上回っているものの、収穫面積の減少分を補うに至らず、てん菜生産量は1090万トン（同6.6%減、７月予測より変化なし）とかなりの程度減少すると見込まれる。

原料の減産に伴い、砂糖生産量は1125万トン（同3.4%減、７月予測より変化なし）とやや減少すると見込まれる。中央政府による国内の砂糖在庫の増加方針を受け、輸入量は574万トン（同14.0%増、７月予測より増加）とかなり大きく増加すると見込まれる。

台風が広西チワン族自治区における干ばつの影響を緩和

中国最大のサトウキビ生産地である中国南部の広西チワン族自治区では、2020年の５月末以降、ほとんどの地域で平年に比べて気温が高くなるとともに、降雨量が減少し、深刻な干ばつが発生していた。しかし、８月１日から２日にかけて、隣接する海南島からベトナム北部にかけて接近した台風により、同自治区の南部と西部のサトウキビ生産地域に降水がもたらされたと現地の報道が伝えている。

サトウキビが最も多くの水を必要とする茎の伸長期である７月末までの約２カ月間、同自治区では降雨がほとんどない中、地域の生産者と製糖業者は干ばつの被害による損失を最小限に抑えるため、取水ポンプの増設、新たな井戸の掘削、スプリンクラーの設置、灌漑（かんがい）用水路の整備などのさまざまな対策を取っていた。しかし、長期の干ばつによりサトウキビの葉が黄変するなど、生育が大きな影響を受けたため、同自治区における2020/21年度のサトウキビの収穫量は、前年度比で減少すると予想されている。

表４　中国の砂糖需給の推移

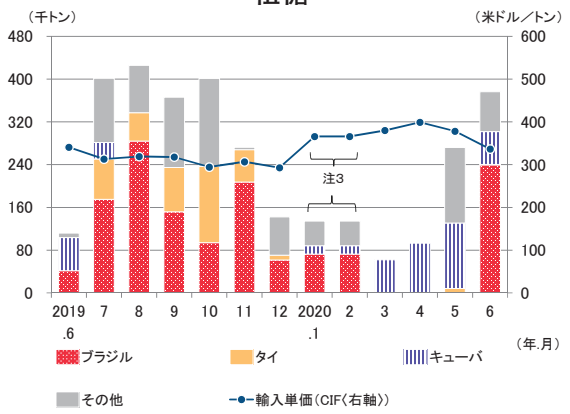
（単位：千ha、千トン、%）

年度		2016/17	2017/18	2018/19	2019/20（7月予測）	2019/20（8月予測）	前年度比（増減率）
サトウキビ収穫面積		1,178	1,231	1,219	1,176	1,176	▲ 3.5
サトウキビ生産量		73,690	76,780	78,590	77,690	74,490	▲ 5.2
てん菜収穫面積		168	186	243	213	213	▲ 12.4
てん菜生産量		8,820	9,590	11,670	10,900	10,900	▲ 6.6
砂糖	生産量	10,041	11,147	11,640	11,249	11,249	▲ 3.4
	輸入量	5,715	6,089	5,035	5,605	5,742	14.0
	消費量	16,847	16,414	16,522	15,659	15,796	▲ 4.4
	輸出量	146	182	210	196	196	▲ 6.8
	期末在庫量	10,689	11,329	11,271	12,270	12,270	8.9
	期末在庫率	62.9	68.3	67.4	77.4	76.7	9.4ポイント増

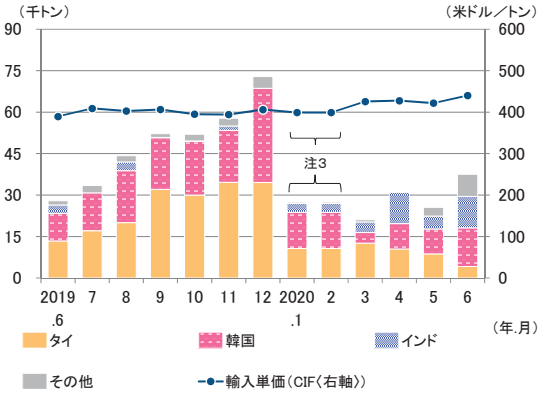
資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, August 2020」
注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考）中国の砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入単価の推移

粗糖



精製糖



資料：「Global Trade Atlas」
注１：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。
注２：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸入量（累計）上位３カ国を表示。
注３：2020年１、２月の数値は、中国海関総署（日本の税関に相当する組織）が公表した１～２月の合計値を等分した。

E　U・英　国

2019/20年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】
収穫面積：162万ha（前年度比5.5%減）
生 産 量：１億1474万トン（同3.3%増）

【砂糖（てん菜糖）】
生産量：1816万トン（同0.5%減）
輸出量：　130万トン（同31.2%減）

2019/20年度の輸出量は、大幅に減少する見込み

2019/20年度（10月～翌９月）のてん菜の収穫面積は162万ヘクタール（前年度比5.5%減、７月予測より変化なし）とやや減少すると見込まれる（表５）。てん菜生産量は、深刻な干ばつに見舞われた前年度からの反動で１億1474万トン（同3.3%増、７月予測より変化なし）とやや増加すると見込まれる。

平年より高温・乾燥した状況が続いたEU最大の砂糖生産国フランスにおけるてん菜の糖分低下などが響き、砂糖生産量は1816万トン（同0.5%減、７月予測より変化なし）とわずかに減少すると見込まれる。輸出量は、生産量が消費量を下回ると予想されることから、130万トン（同31.2%減、７月予測より変化なし）と大幅に減少すると見込まれる。

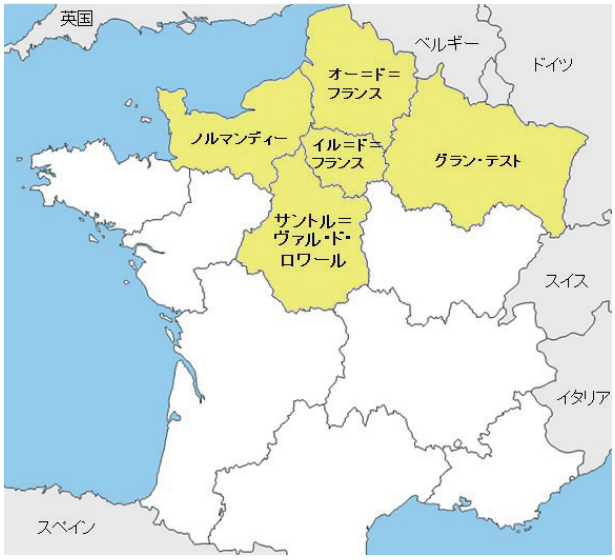
フランス、ネオニコチノイド系農薬の緊急使用を認める方向

EU最大のてん菜生産国フランスのてん菜生産者組合（CGB）は７月31日、現在国内にまん延している萎黄（いおう）病の撲滅に向け迅速な対応を取るよう、首相に要請した。萎黄病は、アブラムシによって媒介されるウイルス性の病気で、てん菜の単収を最大30 ～ 50%減少させるとされている。現地報道によると、同国では４月以降、萎黄病が国内五つの地域圏で発生し、中でもサントル＝ヴァル・ド・ロワール地域圏では、てん菜圃場の約半分が被害を受けている（図３）。なお、萎黄病への防除にはネオニコチノイド系農薬が効果的であるが、同国では2018年以降、その散布がミツバチなどの生態系に影響を及ぼすとして、同農薬の使用が禁止されている。同国農業・食料省は８月６日、萎黄病の有効な防除方法がない現状を危機的状況と判断し、同農薬

の緊急使用を含めた砂糖産業の支援計画を実施すると発表した(注)。

(注) 種子表面へのコーティングのみを認め、噴霧による使用は引き続き禁止する。また、同農薬の緊急使用については、法律の改正作業を今秋に行うとしている。

図3　萎黄病が発生している五つの地域圏



資料：d-maps.comの資料（https://d-maps.com/m/europa/france/france/france15.gif）<2020/8/6アクセス>を基に農畜産業振興機構作成

英国、肥満対策として砂糖などを多く含む食品の販売促進や広告への規制を計画

英国政府は７月27日、脂質・砂糖・塩分を多く含む食品（HFSS）を対象に、購入量の増加を促す販売方法（「buy one get one free（１つ買ったらもう１つは無料）」など）や、午後９時までテレビやインターネットでの広告配信を禁止し、肥満人口の削減に取り組む方針を明らかにした。このほかにも、大手のレストランやカフェ、食事のテイクアウトサービスを対象に、取扱商品のエネルギー量表示の義務付けや、現行の栄養表示制度の見直しなども実施する予定としている。同政府によると、これらの政策は、人々がより健康的な食生活を選択できる環境づくりのほか、肥満との関係が指摘されている新型コロナウイルス感染症（COVID-19）重症患者の削減にも寄与するとしている。

一方、同国の業界団体である英国食品・飲料連盟（Food and Drink Federation）は、本政策は肥満対策としての根拠に乏しく、COVID-19の影響による不安定な経済状況下において、食品などの安売りを禁止し、家計により一層の負担をもたらすのはおかしいと批判した。

表５　EU・英国の砂糖需給の推移

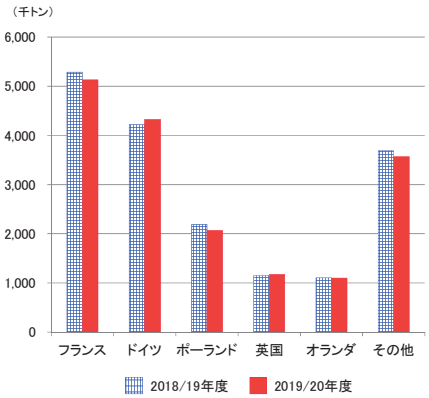
（単位：千ha、千トン、%）

年度		2016/17	2017/18	2018/19	2019/20（7月予測）	2019/20（8月予測）	前年度比（増減率）
収穫面積		1,466	1,731	1,709	1,616	1,616	▲ 5.5
てん菜生産量		107,986	139,453	111,021	114,739	114,739	3.3
砂糖	生産量	17,069	21,734	18,257	18,164	18,164	▲ 0.5
	輸入量	3,117	1,731	2,521	2,500	2,500	▲ 0.8
	消費量	19,177	19,143	19,371	18,849	18,849	▲ 2.7
	輸出量	1,510	3,809	1,895	1,304	1,304	▲ 31.2
	期末在庫量	1,970	2,483	1,995	2,505	2,506	25.6
	期末在庫率	9.5	10.8	9.4	12.4	12.4	3.1 ﾎﾟｲﾝﾄ増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, August 2020」
注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

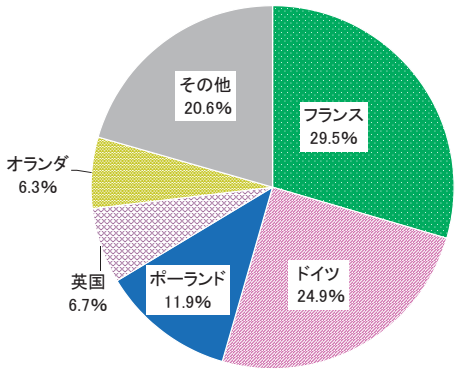
（参考）EU・英国の砂糖生産見通しおよび国別の生産割合（2020年５月時点）

EU・英国の砂糖生産見通し



資料：欧州委員会
注１：精製糖換算。
注２：2019/20年度は予測値。

国別の生産割合



資料：欧州委員会
注：2019/20年度の予測値に基づく割合。

４. 日本の主要輸入先国の動向（2020年８月時点予測）

近年、日本の粗糖（甘しゃ糖・分みつ糖〈HSコード1701.14－110〉および甘しゃ糖・その他〈同1701.14－200〉の合計）の主要輸入先国は、豪州、タイ、南アフリカ、フィリピンで、2019年の主要輸入先国ごとの割合を見ると、豪州が81.4%（前年比10.2ポイント増）、タイが18.6%（同9.5ポイント減）となっており、２カ国でほとんどを占めている（財務省「貿易統計」）。

以上により、この２カ国の動向については毎月報告し、南アフリカおよびフィリピンの動向についてはそれぞれ半年に１回の頻度で報告する（南アフリカは３月号および10月号、フィリピンは４月号および９月号を予定）。

本稿中の為替レートは2020年７月末日TTS相場の値であり、１豪ドル＝77（77.37）円である。

豪　州

2020/21年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】
収穫面積：36万ha（前年度比1.0%減）
生 産 量：3095万トン（同3.0%増）

【砂糖（甘しゃ糖）】
生産量：434万トン（同1.3%増）
輸出量：336万トン（同9.3%減）

2020/21年度、砂糖生産量はわずかに増加する見込み

2020/21年度（４月～翌３月）のサトウキビの収穫面積は、36万ヘクタール（前年度比1.0%減、７月予測より変化なし）とわずかに減少すると見込まれる（表６）。サトウキビ生産量は、記録的な干ばつに見舞われた2019年ほど極端な天候にはならないとの前提の下、3095万トン（同3.0%増、７月予測より減少）とやや増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、前年度の減産からの反動が押し上げ要因となり、434万トン（同1.3%増、７月予測より減少）とわずかに増加すると見込まれる。消費量の落ち込みを輸出促進によって相殺すると予測されるものの、輸出量は336万トン（同9.3%減、７

月予測より減少）とかなりの程度減少すると見込まれる。

サトウキビ生産者団体、窒素施用量の規制を再考するよう上院委員会に要請

クイーンズランド（QLD）州の生産者団体であるCANEGROWERSは７月下旬の上院委員会において、2019年９月にQLD州議会が改正したグレート・バリア・リーフ環境保護法1994年の内容を再検討するよう求めた(注1)。同法には、サンゴの白化現象(注2)を抑制するため圃場から河川や地下水への肥料・農薬成分の流出を厳しく規制することなどが盛り込まれており、一部地域では既に施行されている。CANEGROWERSは、同州政府が定めた窒素施用量はサトウキビ栽培に最適とされる量の７割程度でしかなく、新基準を適用した場合、同州のサトウキビ生産量は年間230万トン減少し、同州が受ける損失は今後10年間で13億豪ドル（1001億円）に上るとした。

また、CANEGROWERSは、そもそも河川や地下水への窒素流出量は、サンゴ礁に直接的な影響を与えないと言われており、本法による窒素施用量の規制は科学的な根拠がないと指摘し、グレート・バリア・リーフの水質調査を再度行い、調査結果を公正に政策へ反映させるよう上院委員会に併せて要請した。

（注１）詳細は、「畜産の情報」2020年２月号「豪州肉用牛産業における環境対策について～持続可能性の確保に向けて～」（https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_000969.html）を参照されたい。

（注２）水産庁によると、白化現象とは、サンゴ礁を形成する造礁サンゴに共生している「褐虫藻」と呼ばれる藻類が失われることで、サンゴの白い骨格が透けて見える現象。白化した状態が続くと、サンゴは褐虫藻からの光合成生産物を受け取ることができず、壊滅する。

表６　豪州の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度		2017/18	2018/19	2019/20	2020/21（7月予測）	2020/21（8月予測）	前年度比（増減率）
収穫面積		376	379	364	361	361	▲ 1.0
サトウキビ生産量		33,344	32,493	30,044	32,000	30,947	3.0
砂糖	生産量	4,463	4,717	4,283	4,485	4,341	1.3
	輸入量	27	18	20	58	58	190.0
	消費量	1,019	1,050	1,052	1,036	1,036	▲ 1.6
	輸出量	3,590	3,562	3,706	3,502	3,362	▲ 9.3
	期末在庫量	849	972	517	880	518	0.2
	期末在庫率	18.4	21.1	10.9	19.4	11.8	0.9 ﾎﾟｲﾝﾄ増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, August 2020」
注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

タ　イ

2019/20年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】
収穫面積：156万ha（前年度比15.0%減）
生 産 量：7489万トン（同42.8%減）

【砂糖（甘しゃ糖）】
生産量：881万トン（同43.0%減）
輸出量：813万トン（同19.6%減）

2019/20年度の輸出量は、大幅に減少する見込み

2019/20年度（10月～翌９月）のサトウキビ収穫面積は、砂糖の国際価格の低迷により他作物への転作が活発化したことで、156万ヘクタール（前年度比15.0%減、７月予測より変化なし）とかなり大きく減少すると見込まれている(表７)。加えて、2019年初頭の降雨量が少なく、サトウキビの生育が停滞していることから、サトウキビ生産量は7489万トン（同42.8%減、７月予測より変化なし）と大幅に減少すると見込まれる。

サトウキビ生産の落ち込みにより、砂糖生産量は881万トン（同43.0%減、７月予測より変化なし）と大幅に減少すると見込まれる。砂糖の減産に伴い輸出余力が低下し、輸出量は813万トン（同19.6%減、７月予測より減少）と大幅に減少すると見込まれる。

ツマジロクサヨトウによる被害の拡大を警戒

現地紙は８月10日、タイ最北部に位置するチェンライ県の水田で、ツマジロクサヨトウ(注)による被害が確認されたと報じた。これに対しタイ農業・協同組合省農業普及局（OAE）は、被害拡大を防ぐべく監視を強化することを発表し、トウモロコシ、米、サトウキビなど食用作物の栽培地域におけるツマジロクサヨトウの発生状況の調査・監視を国内すべての県に要請した。また、トウモロコシ生産者に対して、ツマジロクサヨトウへの警戒を促すとともに、定期的に圃場を調査して、ツマジロクサヨトウによる農作物の被害がないか確認を行うよう要請し、防除・駆除の方法をまとめた印刷物を配布して指導を行うとした。

（注）ツマジロクサヨトウは、南北アメリカ原産の農業害虫で、トウモロコシ、ソルガム、サトウキビ、野菜類など、80種類以上の作物に被害を与えることなどが知られており、日本では、2019年７月に初めて発生が確認された。

表７　タイの砂糖需給の推移

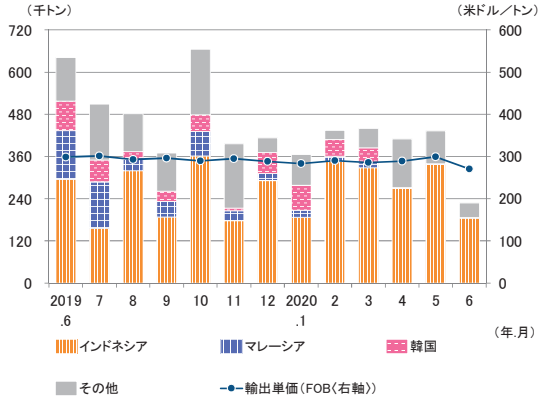
（単位：千ha、千トン、%）

年度		2016/17	2017/18	2018/19	2019/20（7月予測）	2019/20（8月予測）	前年度比（増減率）
収穫面積		1,578	1,790	1,835	1,560	1,560	▲ 15.0
サトウキビ生産量		92,951	134,929	130,970	74,893	74,893	▲ 42.8
砂糖	生産量	10,657	15,586	15,457	8,807	8,807	▲ 43.0
	輸入量	0	5	3	3	18	472.4
	消費量	3,283	3,434	3,737	3,557	3,557	▲ 4.8
	輸出量	7,393	9,820	10,113	8,629	8,132	▲ 19.6
	期末在庫量	3,951	6,289	7,899	4,523	5,035	▲ 36.3
	期末在庫率	37.0	47.4	57.0	37.1	43.1	14.0ポイント減

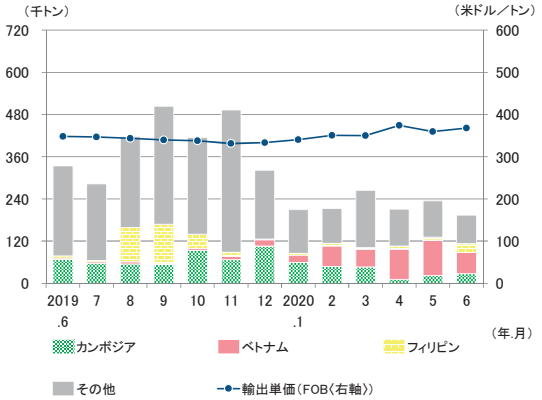
資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, August 2020」
注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考）　タイの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移

粗糖



精製糖



資料：「Global Trade Atlas」
注１：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。
注２：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位３カ国を表示。

フィリピン

2020/21年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】
収穫面積：40万ha（前年度比1.1%減）
生 産 量：2262万トン（同3.2%減）

【砂糖（甘しゃ糖）】
生産量：213万トン（同1.2%減）
輸出量：　18万トン（同27.5%増）

2020/21年度、生産量はわずかに減少し、輸出量は大幅に増加する見込み

2020/21年度（10月～翌９月）のサトウキビ収穫面積は、バナナやパイナップルなど輸出用作物として増産傾向にある他作物への転作が影響し、40万ヘクタール（前年度比1.1%減）とわずかに減少すると見込まれる（表８）。また単収が前年度より落ち込むことで、サトウキビ生産量は2262万トン（同3.2%減）とやや減少すると見込まれる。しかし、気象条件が良好であったことから、糖度の高さがサトウキビ生産量の減少を相殺し、砂糖生産量は213万トン（同1.2%減）とわずかに減少すると見込まれる。輸入量は、国内需要を賄うために37万トン（同88.3%増）と大幅に増加すると見込まれる。輸出量は、米国向け輸出量の増加を受けて、18万トン（同27.5%増）と大幅に増加すると見込まれる。

表８　フィリピンの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度		2017/18	2018/19	2019/20	2020/21（8月予測）	前年度比（増減率）
収穫面積		418	410	407	403	▲ 1.1
サトウキビ生産量		23,975	21,768	23,368	22,618	▲ 3.2
砂糖	生産量	2,083	2,074	2,153	2,127	▲ 1.2
	輸入量	283	616	197	371	88.3
	消費量	2,258	2,281	2,205	2,320	5.2
	輸出量	205	108	142	181	27.5
	期末在庫量	497	798	801	797	▲ 0.4
	期末在庫率	20.2	33.4	34.1	31.9	2.2 ﾎﾟｲﾝﾄ減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, August 2020」
注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。